

の 國 際 部 報 告

四〇

オフィシャル日本が國際聯盟を脱退して、強いて「非常時」を作為し、政治、經濟の諸政策の上に國家主義色濃厚なる今日、一方に於ては我國の外交方針の上に從來よりも一層強く國民的總意を反映せしむる爲めに、又他方に於ては他國の勞動階級と國際的協力を持續する爲めに殘されたる唯一の方法として、國際勞動總會を死守すべしと爲す本組合の對國際的方針は本年に於ても昨年と何等變るところはない。否、本年を以ていよいよ「亞細亞勞動會議が結成されんとしつゝある事、第十四聯合海事委員會に米窪國際部長の出席せる事、我國商品の目覚ましき海外進出の原因として我國労働條件が論議せらるゝ等の諸情勢は、非常時下の我國労働運動に於ても國際的問題がいかに重大なる聯關を有するかを物語るものである。

此點について日本海員組合は我國労働團體中國際的加盟を持續しつゝある唯一の團體なる點に於て、又それは日本労働組合會議の盟主的地位にある點に於て、その行動は極めて重大視されたのであつた。それだけに本組合國際部の活動は例年に比しその重要性を増加した。

本年度國際部事業中先づ記述を要する點はI.T.F.と本組合との加盟及友誼關係に就てである。

本組合のI.T.F.に對する態度は、従前もさうであつたが、加盟年度の加ふるにつれますます「友誼的」となりつゝある。それは海上労働者の國際性より見るも、將又過去に於ける國際海員問題の解決の上にI.T.F.が貢獻せる業績より見て當然の事であつて、最近瑞典船「ルダング」イワツク號乗組日本船員の不當放逐問題について、海員組合がI.T.F.本部と通じ、I.T.F.加盟の瑞典

又昨年十二月二日及三日の兩日に互り巴里に開かれたる聯合海事委員會對策I.T.F.船員部會議に於て、I.T.F.總主事エド・フィンメン及I.T.F.船員部長ヘンソン兩氏は、海事問題を陸上問題と共に普通總會に於て審議すべき事を主張せる歐洲各國の海員團體の意見を押へ、おそくも一九三五年以前に於て海事特別總會を開くべしとする米窪部長の提議にかゝはる日本海員組合の意見を支持せる事は、兩者間の關係がますます緊密化し、ますます協力化する事を物語るものである。

本組合の國際的活動として次に記述すべき點は、第十八回國際労働總會に對する態度である。

第十八回國際労働總會は、來る六月四日より約三週間露府に於て開かれるので、本組合は他の友誼團體と共に、日本労働組合會議を通じて、左記の如き代表委員及顧問を推薦する事を決定した。

労働代表委員	全國労働組合同盟主事	菊 川 忠 雄
同 顧問	海員協會庶務部長	鈴 木 倉 吉
同 顧問	東電従業員組合執行委員長	岩 永 榮 一

尙第十八回國際労働總會議題は左記の如くであるが、本年はこの議題以外に、我國商品の海外進出をソシアル・ダンペン等なりとする問題が露府に於て論議の中心となり、その結果我國政府及使用者代表は我國労働状態を歪曲報告する處あり、更に進んではこの問題の爲めに、國際労働機關を脱退する危険絶無にあらざと思惟せる本組合は、日本労働組合會議を通じて、是等の場合に處する態度及方策につき日本労働代表に示唆を與へるところがあつた。

第十八回國際労働總會議題

(一)失業對策としての労働時間短縮に関する件(最終討議)